

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会

第21回会議議事概要

開催日及び場所	第21回会議 平成26年1月22日(水) 内閣府5階特別会議室
委員	委員長 國廣 正 (弁護士) 委員 今井 猛嘉 (法政大学大学院法務研究科教授) 委員 大森 明 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授) 委員 長岡 美奈 (公認会計士) 委員 寺田 麻佑 (国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科准教授)
議事	○ 平成25年度 第2四半期の契約に係る審議 ○ その他

○平成25年度 第2四半期の契約に係る審議	
審議対象期間	平成25年7月1日～平成25年9月30日
対象案件の説明	○ 対象期間における契約の全体(内閣官房26件・内閣法制局2件・内閣府134件)について事務局から説明 ○ 審議案件の抽出の考え方について当番委員から説明 抽出にあたっての関心事項 ・落札率が低い案件について、予定価格の積算を含め入札が適正に行われているか確認を行う。 ・契約内容が特殊な案件について確認を行う。 さらに以下の観点から各案件を絞込み
審議抽出案件	3件
【競争入札】 総合評価落札方式	(府)1件 (関心事項) 学校法人が受託しているが、落札までの経緯とその契約内容の詳細について確認する。(一回目の入札では落札者が辞退している。) 契約件名:「平成25年度防災スペシャリスト養成研修」の実施に関する調査検討・企画運營業務 契約相手:学校法人明治大学 契約金額:82,635,000円 契約日:平成25年8月9日 担当部局:内閣府政策統括官(防災担当)
【競争入札】 総合評価落札方式	(府)1件 (関心事項) 低入札率になった要因について確認する。 参考見積と応札額に大きな差がついていることについて確認する。 契約件名:物資調達・輸送調整等支援システム開発業務 契約相手:日本電気株式会社 契約金額:15,540,000円 契約日:平成25年8月14日 担当部局:内閣府政策統括官(防災担当)

<p>【随意契約】 企画競争</p>	<p>(府) 1件 (関心事項) 契約内容が特殊であるため、その詳細について確認する。 限度額、支援人員等の考え方、企画競争の採点基準等業者決定プロセスについて確認する。</p>	<p>契約件名：平成25年度再就職支援業務 契約相手：株式会社パソナ 契約金額：480,000円(単価契約) 契約日：平成25年9月12日 担当部局：官民人材交流センター</p>
<p>委員からの意見・質問 それに対する回答等</p>	<p>別紙のとおり</p>	
<p>委員会による意見の 具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	

意見・質問	回答
1 「平成25年度防災スペシャリスト養成研修」の実施に関する調査検討・企画運營業務	
落札者が辞退という件はどうなったか。	本件の入札は再度入札になる。前回の入札では落札額が低価格入札となったことからヒアリングを行った。ヒアリングの結果、落札者は仕様書に対する確認が不十分なことから所要の経費の計上がなく、入札額では業務を実施することが出来ないということで契約辞退となった。
内訳書の外注費が契約額に対してかなりの割合を占めているが、外注費の内訳はあるか。外注費の内容は何を行い、その実質的な検証はしたのか。	外注費の内訳の内容を確認し、次回報告したい。
一般競争入札で入札額が範囲内であれば内訳は検討しないのか。	一般競争の場合、総価での業者決定になる。内訳については総価の内訳という位置づけである。
新たな企画ということで、今回、学校法人が落札した。広く声掛けするなど周知をすれば他の大学も応募した可能性があったと思う。	公平性の観点から、不特定多数に対して声かけするために入札公告の掲示や、ホームページに掲載している。
総合評価方式や企画競争では入札する業務の内容に依存しているものがあり、例えば、この分野なら東北方面に声かけをすとか、見積もりをとるとか、公告から提案書の提出までの期間を最低の期間とするか、もう少し延ばすかなど業務の特質性と予算額に応じて対応を考えた方がいいのかなという気がする。	今後の検討材料にしたい。
形式的平等も大事だが、実質競争をいかに高めて、それにより国民に一番適切な価格で、適切なサービスが提供されるようにするかという目的を忘れてはならないと思う。	

2 物資調達・輸送調整等支援システム開発業務

落札した業者が参考見積り提供依頼で提出した見積もりから大幅に値下げした理由は。

低価格入札のためヒアリングを行ったところ落札時には落札業者が販売しているパッケージソフトを一部改変する形でシステムに納めることにより価格を安くすることができたとのことであり、参考見積もりを出した時点では当該パッケージを使うことは全く想定していなかったという説明である。また、システム開発後に改修を行うこともあり得るためソースコードを提出することを確認している。

コンピュータ関係のシステムを入れるときには、一般的なものを使うことによって安く入札できると業者を誘導することも一つの考え方だと思ふ。そうすると少し活発な入札状況になるのではないかと思ふ。

データベースソフトやハードウェア自体、特殊なものでなく汎用的なものの使用を念頭にした仕様を作成しており、提案でも一般的に使われているものが採用されていた。

3 平成25年度再就職支援業務

再就職支援事業で制度を利用できる人数が少ないように思うが。

初年度についてはかなり絞り込んだ人数でスタートした。

コストとの見合いで早期退職者を増やすという政策目的からしても一人一人の人が満足すればより使われるようになるという関係があるので、利用者の満足度を知ることが不可欠だと思う。何らかのモニタリングを行う必要があるという感じがする。

そのとおりだと思う。支援を受けた方の評価が高ければ、後に続く方もなかなかいい制度だという評価が固まってくると思う。そういうふうに循環させられればと思う。

○その他

- ・ 調達に関する事項の情報共有
- ・ 調達改善計画の上半期進捗状況
について事務局から説明